



< 神経内科 >

概要

2010 年のスタッフは、昨年と同様4名(空野、岩井、出井、酒井)でした。

【入院診療】

2010年の総入院患者数は529人でした。

入院患者の疾患の主な内訳

脳血管障害	331 人
うち脳梗塞	(262 人)
うち脳出血	(38 人)
うち TIA その他	(31 人)
脳炎、脳症、髄膜炎	22 人
パーキンソン病	8 人
筋萎縮性側索硬化症	19 人
脊髄小脳変性症	2 人
その他の神経変性疾患、認知症	10 人
多発性硬化症	8 人
ミエロパチー	10 人
ニューロパチー	11 人
ミオパチー	8 人
重症筋無力症	2 人
てんかん	33 人
ベル麻痺	2 人
めまい	7 人
他の非神経疾患 (CPA, 大量服薬、アナフィラキシー、 ヒステリー、誤嚥性肺炎、尿路感染症、 胆のう炎、脱水、など)	41 人

以下に、2010 年のトピックスを列挙しました。

(1) Bickerstaff 型脳幹脳炎 (BBE)

BBE は Fisher 症候群との異同が論じられていますが、今回 10 代女性の患者が入院しました。入院時、外眼筋麻痺、顔面麻痺、球麻痺、四肢麻痺など多彩な症状を示し、回復するかどうか心配しましたが、IVIg とステロイド治療に奏功し、1ヶ月足らずで退院できました。

(2) 急性脊髄炎

インフルエンザワクチン接種後しばらくして、急に完全対麻痺、排尿障害などきたした女性例でした。幸いステロイドパルス療法に反応し、なんとか重い後遺症を残さず退院できました。この例は SLE あるいは NMOS 症スペクトラムの疾患の可能性を考えています。

(3) 筋萎縮性側索硬化症

在宅人工呼吸器療法を行っている方に対するレスパイト入院、新規の方に対する胃ろう増設のための入院など、引き続きのべ 19 人の入院がありました。東三河地域では当科に患者が集中するため、外来でも多くの方がおり、年々負担が増していきばかりです。

(4) ポリニューロパチー

CIDP 例で、IVIg や免疫吸着療法によく反応するのですがその効果が通常より短いため度々入院の必要な方がいます。当科ではこのような例は初めてですが、一般的には治療反応性を規定する何らかの遺伝子背景の存在が推定されています。

(5) 退院・転院について

当院の役割をなかなか理解されず退院、転院をしぶる方には相変わらず苦労しています。また、今年度は転院先の病院も混雑しており、滞ることがしばしばありました。さらには、最近では難しい家族背景などのため、退院、転院にととも月日がかかる例もあり、問題を複雑にしています。

【外来診療】

年間の総受診者数は 8681 名で、その内初診者数は 1389 名でした。あいかわらず東三河地域は神経内科医過疎地ですので、東三河全域にとどまらず、一部西三河、湖西地域から、あらゆる神経疾患が当科に集中します。早く人員が増え、少なくとも常時 2 診察室体制にしたいのですがどこも人手不足で簡単にはいきません。2010 年度も引き続き外来、入院患者を対象に南 1 病棟で音楽療法を行っています。

【在宅療法】

引き続きネマリミオパチーで在宅人工呼吸器療法を行っている患者宅へ月 1 回 ME のスタッフとともに往診に行っています。

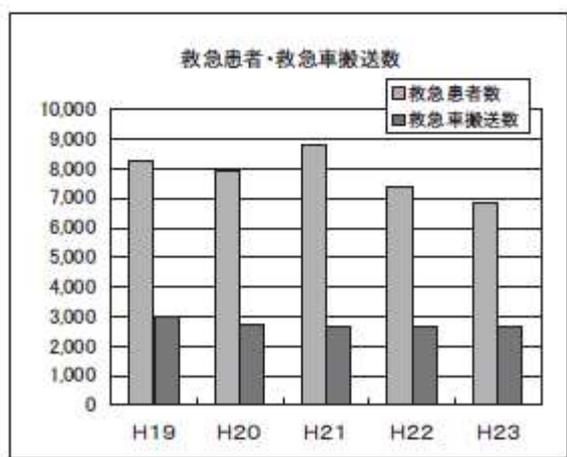
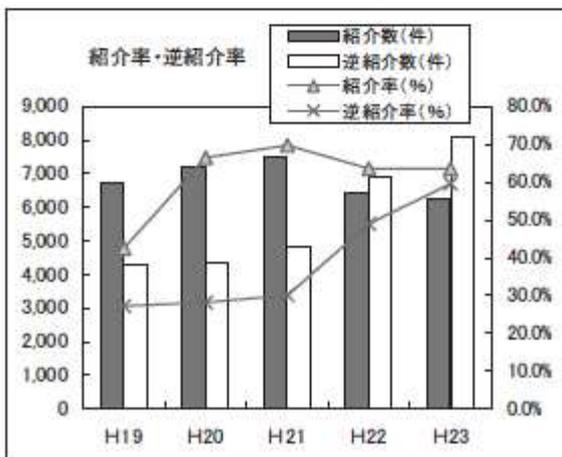
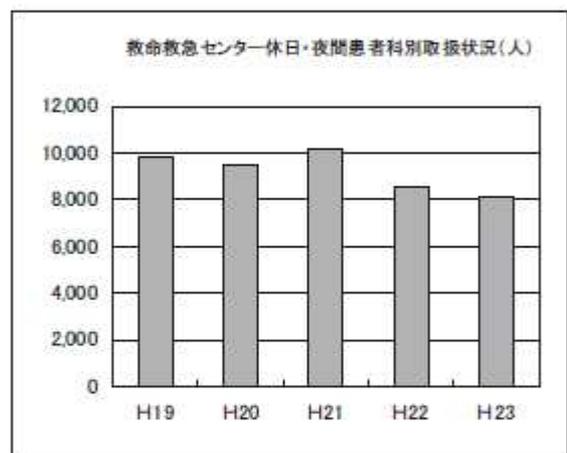
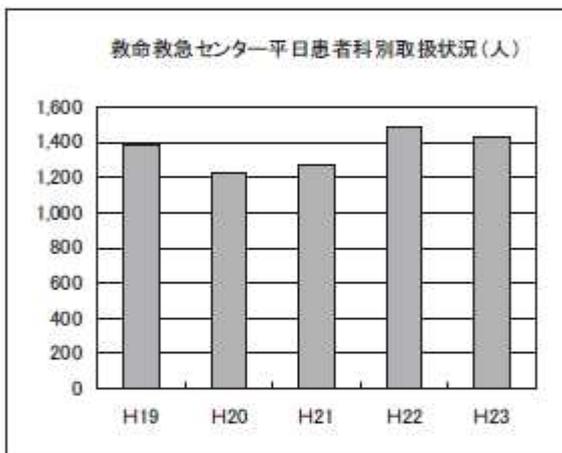
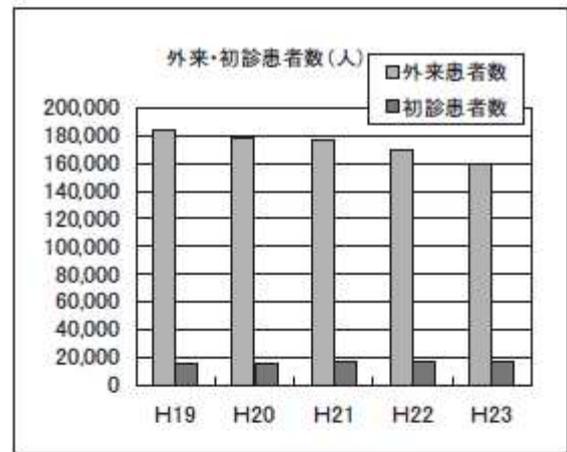
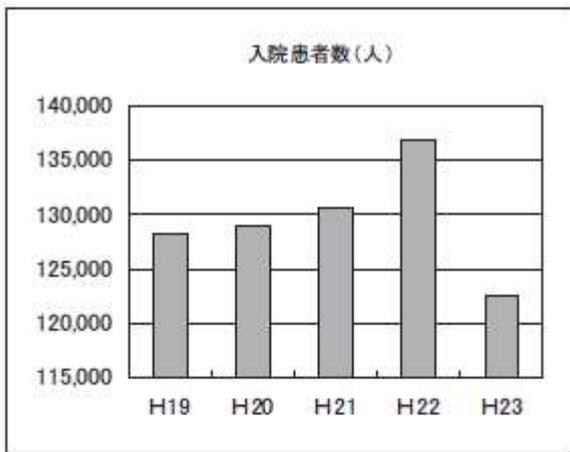
【諸検査】

針筋電図、脳波判読、末梢神経・筋生検については、名古屋大学神経内科の応援を得ています。

【地域医療】

介護保険の意見書、訪問看護指示書、など書類の依頼は相変わらず多くあります。今年度も保健所からの依頼で難病患者地域ケア推進会議に出席しました。また例年どおり、愛知県難病医療連絡協議会に出席しています。

(空 野 謙 次)



業績

- 座長
- 講演
- 論文

座長

1. 脳梗塞急性期治療に関する最近の話題
 杵野謙次
 第2回東三河脳梗塞超急性期治療研究会(豊橋)2011.2.25
2. レベチラセタムを組み入れたてんかん治療
 杵野謙次
 東三河てんかんセミナー(豊橋)2011.7.8
3. 両側視床下核刺激療法後、長期経過したパーキンソン病の一例
 杵野謙次
 第三回東三河地区パーキンソン病講演会(豊橋)2011.9.30
4. パーキンソン病の病態と治療
 杵野謙次
 第30回MCRフォーラム(豊橋)2011.11.2
5. 脳梗塞再発予防のための内科的管理ー抗血栓療法の話題を中心にー
 杵野謙次
 脳梗塞治療戦略研究会(豊橋)2011.11.25

講演

1. ALS(筋萎縮性側索硬化症)との上手な付き合い方
 杵野謙次
 ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者・家族のつどい(豊橋)2011.11.25

論文

1. 本邦で最初のトランスサイレチン Thr49Ala 変異による
家族性アミロイドポリニューロパチーの1例
宇田憲司、酒井竜一郎、出井里佳、岩井克成、杵野謙次
日本内科学会雑誌、100:3028～3030、2011

